

—寺子屋の教科書にみる近世社会—

寺子屋は江戸時代に普及した庶民の教育施設です。地域の有識者が指導者となり、6歳～13歳ほどの子どもたちに読み書きや算盤（そろばん）などを教えていました。

江戸時代を通して広く普及した寺子屋は、明治以降の学校教育の基盤となりました。

本企画展では、寺子屋の教科書として使用されていた往来物などを展示し、教育の歴史を紹介します。

ごあいさつ

平成 28 (2016) 年 4 月 14 日と 16 日に起こった熊本地震によって、熊本県と大分県では甚大な被害をうけました。これまで経験したことのない激震は、人命はもとより、住宅等にも被害を及ぼし、多くの人々に試練を与えました。また、市内では、地域コミュニティーで大切にされてきた史跡や石碑、信仰物など、今なお、被災したままの状態が続いているところもあります。

熊本城をはじめとする指定文化財が全国的に注目を集め、各地から支援をうけることができている一方、地域には、それぞれ心の拠りどころとされている有形・無形のモノがあります。文学部日本史研究室に設置した資料保全継承会議は、日本財団の支援を受けて、熊本大学周辺の史跡等の現状確認を行ない、今後、修復する過程での参考資料、そして、地震を風化させない“記録”として残すために悉皆調査を実施しました。また、甲佐町の旧家に残されていた被災資料を分類整理して目録を作成し、報告書として刊行しています。

平成 28(2016)年 11 月からは、産学官連携事業の一環として天草市立天草キリシタン館で被災資料と安高研究室所蔵の資料を用いた企画展示を行なっています。そして、平成 29 (2017) 年 6 月には、公益財団法人カメイ社会教育振興財団から、昨年調査した成果を、展示活動を通じて発信していく助成事業に採択されました。そこで、安高研究室に所属するゼミ生たちを中心に、各種テーマを設定した企画展活動を展開していくことになりました。

研究成果、学術情報の発信を通じた社会還元、大学の地域貢献のひとつとして、本企画展を附属図書館と天草キリシタン館で開催しています。あわせて、将来、博物館学芸員への就業を目指す院生や学生たちへの実践教育の機会として、“学生が主役になれる企画展”を目指して、継続していこうと思います。

安高研究室では、地域に根ざし、地域に貢献できる学生教育を目指していく所存でありますので、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 30 (2018) 年 3 月 6 日

熊本大学大学院人文社会科学研究部
准教授 安高啓明



百姓往来

年代：嘉永3年（1850年） 所蔵：甲斐家

『百姓往来』は江戸時代の初等教科書である「往来物」の一種です。「往来物」は平安時代末期から明治時代初期まで広く教育の場等で使用されていました。

『百姓往来』は百姓の子弟に必要な知識や文字を学ばせるために作られました。農業道具や肥料、副業についてや農民生活の心得などがわかりやすくまとめられています。そのため、幕末期から明治時代初期にかけて広く普及しました。今回展示した『百姓往来』もこの時期に出版され、甲佐町で受け継がれてきたものです。

手紙向四季文章

年代：江戸時代 所蔵：安高啓明研究室

『手紙向四季文章』は「往来物」の一種ですが、「往来物」は本来手紙の模範的な文章を集めたものでした。鎌倉時代以降になると、作文のための単文・単語集や社会知識・実用知識等を盛り込んだ物となっていきます。

その種類は多岐にわたり、手習や地理など往来物が作成され寺子屋の教科書として使われました。

今回展示した『手紙向四季文章』は年始など時候の挨拶が月ごとにまとめられています。手紙を送る際に参考にされていました。表紙などには男性の挿絵も描かれています。



『庭訓往来』について

『庭訓往来』には季節柄の手紙の見本となるものが収められています。手紙の模範となるだけでなく、生活・職業・宗教に関する単語を列記していることから、語彙力を高めるために用いられました。

江戸時代には庶民の家庭教育や寺子屋の教科書として全国へ普及し、700種以上が作成され、なかには注釈が添えられているものもあります。また、江戸時代後期には子どもの興味を引くため挿絵のあるものが主流になりました。

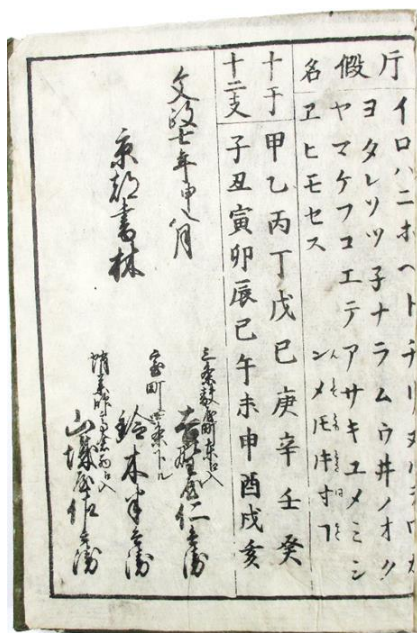
庭訓往来

作成：龍章堂 出版：宋榮堂（浪花）

年代：文政7(1824)年 所蔵：甲斐家

注釈や挿絵はなく、本文とふりがなのみのものです。

背表紙に天保12(1841)年に甲斐氏が手に入れたという記述があります。



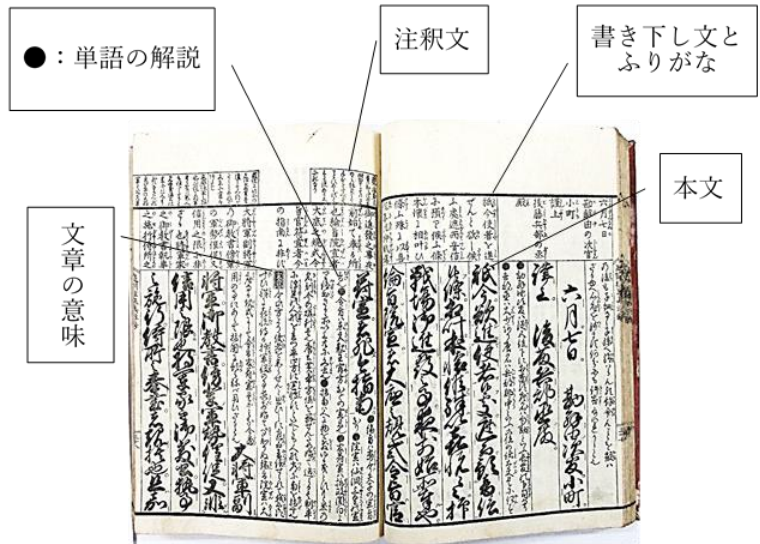
『庭訓往来』の巻末にはカタカナと干支の一覧が添えられています。

干支一覧は本企画展で展示している『百姓往来』・『改正庭訓往来』の巻末にも記されていきました。暦の把握が内容を理解し、日常生活を営む上で欠かせないものであったことがわかります。

庭訓往来具注鈔

作成：蕨関牛 出版：五書堂が合同で出版(京・摂津)
年代：弘化3(1864)年 所蔵：甲斐家

『庭訓往来』の本文に書き下し文やふりがな・注釈・単語の意味・文の意味を書き加えたものです。初版は天保5(1834)年に出版されました。今回展示したものは弘化3年に再版されたものです。



改正庭訓往来

作成：不明 出版：森屋治兵衛など(江戸)
年代：江戸末期 所蔵：安高啓明研究室

『庭訓往来』の本文に注釈と挿絵が添えられています。巻末の版元より江戸から奥州にかけて関東・東北地方で出版されていたことがわかります。



この絵は傾城(花魁)・白拍子(男舞を舞う遊女)・遊女(非公認の遊女)について説明する注釈に添えられていたものです。

ありがとうございました！



助成 公益財団法人カメイ社会教育振興財団(仙台市)
作成：島 由季・久保 春香・長屋 佳歩